

徳島県域における縄文時代研究の現状と課題

湯浅利彦

[Toshihiko Yuasa:Current status and problems of Jomon period research in Tokushima prefecture]

徳島県立博物館研究報告, 第 28 号, p. 1-19, 2018 別刷

*Reprinted from*

Bulletin of the Tokushima Prefectural Museum, no. 28, p. 1-19, 2018



## 徳島県域における縄文時代研究の現状と課題

湯浅利彦

[Toshihiko Yuasa: Current status and problems of Jomon period research in Tokushima prefecture]

摘要: 徳島の考古学にとって大きな一里塚となった『論集 徳島の考古学』が刊行されてから15年になる。この間の徳島県域に関する縄文時代研究文献目録を作成するとともに、新発見遺跡や整理報告された資料を加えて、縄文遺跡の動態を概観する。そして学史や土器編年、石器、集落などテーマごとの研究状況をまとめる。

キーワード: 新発見遺跡, 縄文遺跡の動態, 土器編年, 文献目録

### はじめに

徳島県域で確認されている縄文時代の遺跡は、土器・石器等の単独出土を含め、現在135カ所程度、遺跡としてのまとまりを認識できるのは50カ所に満たない。縄文遺跡が少ないと言われる中四国地方のなかでもとりわけ少ない状況である<sup>1)</sup>。

筆者はかつて、当館元館長の天羽利夫が中心となって編集した『論集 徳島の考古学』(徳島考古学論集刊行会, 2002)において、「縄文時代」を担当し、県域を対象とした明治以降の縄文時代研究史と成果のまとめを行った(湯浅, 2002)。当時判明していた石器等の単独出土地点も含め120カ所を一覧として報告するとともに、1990年代以降、大規模調査に伴い発見された縄文時代遺跡の整理報告が進みつつあった、それぞれの課題の項目を列挙した。前稿以降15年間の資料の増加・整理報告状況や研究状況について文献目録を作成して概観することにより、現時点での到達点を確認し、今後の研究の基礎としたい。文末の表は県域の縄文遺跡・遺物等に言及された文献を集め、本文の項目ごとに年代順に記載した(表2~16)。

### 1 2002年以降の主な縄文時代遺跡調査

#### (1) 新たに発見・発掘調査された主な遺跡(表4・5参照)

平成期になって、高速道路建設など急増した開発に対応するために、県教育委員会は財団法人徳島県埋蔵文化財センター(2010年度以降公益財団法人)を設立して

調査を行う態勢を整え(以下「県」という)、市町村も調査体制を整備して、発掘調査量は大幅に増え、各時代とも爆発的に資料が増加した。大規模調査によって広範囲に、深い地層まで確認が進んだため、縄文時代の遺跡も発見が相次いだ。しかし発掘調査は吉野川流域に集中し、県南部は分布調査(高島ほか, 1995)の成果はあったが、発掘調査は少ないままであった。2000年以降の特色は県南部の高速道路延伸や河川改修に伴う発掘調査事例が増加し、重要な縄文遺跡の発見につながったことにある。以下、吉野川上流域<sup>2)</sup>から順に新発見遺跡の概要を述べる。吉野川中流域・下流域北岸にはこの期間、顕著な新発見はなかった。

吉野川上流域の西州津遺跡(三好市池田町)は2009・2010年に県によって調査された中位段丘上の遺跡である。報告書は未刊行だが、晩期中葉の39基の貯蔵穴群が検出され、うち9基はドングリの遺存が認められたことなど速報がある(近藤・大北, 2011; 大北, 2011)。

吉野川下流域南岸域では、次の2遺跡の調査結果が目される。

南蔵本遺跡(徳島市南蔵本町)は眉山北西麓の庄・蔵本遺跡の東側に隣接する遺跡である。2006~2008年に県が調査した。晩期末~弥生前期の集落で、弥生前期末までに埋没した自然流路から、完存に近い飾り弓が検出された。弥生前期前半の住居跡からも水銀朱を塗布した縄文系の異形土器が出土している(公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター, 2014)。

下中筋遺跡(徳島市上八万町)は眉山南麓園瀬川沿いの狭い沖積地にある。県の2007・2008年調査で、晩期

2017年11月30日受付, 12月26日受理。

徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園, Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Hachiman-cho, Tokushima 770-8070, Japan.

の包含層がこの地域では初めて確認された（大北ほか、2009）。報告書は未刊行である。

県南部で、大きな成果があったのは次の4遺跡である。

新居見遺跡（小松島市新居見町）は四国横断自動車道建設関連の調査で、県と小松島市教育委員会が区域を分担して2010～2012年に発掘調査した。一部に晩期中葉～後半の包含層があり、県内初の土偶が出土した。土偶は人形で胴体（腹部）から足の部分が県側で、左腕が市側から出土した。胸部～頭部は見つかっていない。県側は調査報告会資料（栗林、2011；遠部、2011）で速報され、報告書は2017年度末に刊行予定である。市は報告書（小松島市教育委員会、2015）を刊行している。

宮ノ本遺跡（阿南市長生町）は2003～2006年に県が発掘調査した桑野川左岸の沖積地の遺跡である。晩期中葉の住居状遺構1軒、後葉～末の竪穴住居が10軒検出された（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2009a）。凸帯文土器内面にイネの圧痕も検出されており（中村、2014a、2014b）、後続する弥生時代前期後半の集落とあわせて、稲作農耕の始まりを考える上でも重要な遺跡である。

田井遺跡（美波町田井）は2001～2002年に県が発掘調査した。山地を背にした海岸部に位置し、現在は浜堤の奥側になっているが、遺跡の存続期間には海岸に面した遺跡と考えられている。大量の出土土器は前期中葉から中期末の資料だが、前期末～中期前半が盛期とみられる。集石遺構を中心に包含層を確認したが住居跡は確認されていない。球状耳飾を再利用した勾玉8点が発見され、石器も他地域の石材を使用したものが目立ち、磨製石斧の製作もみられる（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2008）など、立地・遺物ともに注目される。従来、資料が乏しかった時期の遺跡で、県域全体を考えるうえでも重要である。

深瀬遺跡（阿南市深瀬町）は2010・2012～2014年に県が発掘調査した。那賀川流域の谷底の小さな平坦地にある。前期末～後期末の土器が断続的に出土し、四国初のヒスイ製丸玉や県内初の独鈷石が出土するなど注目される成果がある（公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2016）。

## (2) 整理報告された主な遺跡（表4参照）

表4の文献目録で2006年以前の刊行になっているものが1990年代に発掘調査が行われ、2002年以降に整理報告された遺跡である。特に注目されたのは後述する矢野遺跡（徳島市国府町：後期）であるが（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2003a）、荒川遺跡（美馬市美馬町：

前期末～後期中葉・晩期）でも大量の土器が斜面堆積の状態出土した（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2005b）。大柿遺跡（東みよし町昼間：中期末～後期中葉・晩期）は中期末～後期初頭を考える上で注目される土器や、晩期の打製石鍬、石棒などの出土が重要である（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2002a、2004b）。

他に特徴的な遺物が出土した遺跡として、石井城ノ内遺跡（石井町石井：前期・中期末・晩期）は球状耳飾の一部や中期末の沈線文の土器が（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2003b）、刃露遺跡（鳴門市大津町：後期中葉）は県内ではほとんど出土していない元住吉山I式の土器が（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2005c）、西原遺跡（東みよし町足代：弥生時代）ではヒスイ製大珠が（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2004a）、東禅寺遺跡（吉野川市鴨島町：後期前葉）は松ノ木式土器の実測図が紹介された（幸泉、2002）。さらに土井遺跡（東みよし町昼間：晩期）は凸帯文期の土坑（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2002b）、観音寺遺跡（徳島市国府町：晩期）は晩期前葉の土器群（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2009b）、山田遺跡（I）（三好市池田町：早期末～前期）は岩陰遺跡で2ヶ所の地床炉（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2005a）、などが報告された。

## (3) 整理報告における自然科学分析（表6参照）

また、各報告書には様々な自然科学分析の成果も記載されており、採取資料等の限界はあるが、結果を用いた多角的な分析が可能となりつつある。

放射性炭素年代測定が、貞光前田遺跡（つるぎ町貞光：中～後期）・矢野・深瀬・南蔵本の各遺跡で実施されている（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2001b）。貞光前田遺跡は後期中葉の住居跡の試料で $3770 \pm 40$ BPの測定値であった（古環境研究所、2001）。矢野遺跡は後期初頭の各遺構から10点の試料を選定して計測し、 $4030 \pm 40 \sim 3810 \pm 40$ BPの範囲の値を得た（古環境研究所、2003a）。深瀬遺跡における宮滝式土器付着物の測定結果は $3900 \pm 20$ 、 $5310 \pm 30$ 、 $3120 \pm 20$ 、 $3390 \pm 20$ yrBP（加速器分析研究所、2016a）と、ばらつきがあり、前期末・中期初頭では $3410 \pm 30$ 、 $4450 \pm 30$ yrBP（加速器研究所、2016b）と、これも想定したい値とは異なる。南蔵本遺跡の飾り弓の場合は $2200 \pm 20$ yrBP前後を示している（加速器研究所、2014）。また、宮ノ本遺跡の縄文晩期住居跡の焼土について古地磁気法による年代測定を行ったが、西暦 $100 \pm 50$ 年、2150年BP頃、2250年BP、2700～2750年BP頃、3100年BP、6550～6700年BPという測定値（森永、2009）で、年代を決めるに

はきびしい結果である。

縄文土器の胎土分析を白石純が、大柿遺跡2ヶ所（白石、2002、2004）、田井遺跡（白石、2008）、新居見遺跡（白石、2015）、深瀬遺跡（白石、2016）で行っている。サヌカイトの原材産地同定については、藁科哲男が石井城ノ内遺跡（藁科、2003b）、大柿遺跡2ヶ所（藁科、2002、2004）、矢野遺跡（藁科、2003a）、深瀬遺跡（藁科、2016b）の資料を分析し金山ほかの産地とした。藁科は深瀬遺跡のヒスイ製丸玉の産地も分析しており（藁科、2016a）、ほぼ糸魚川産で間違いのないようだ。

赤色顔料については、徳島に水銀朱産地があるため、各時代ともベンガラとの差異を注意深く分析しているが、縄文時代の赤色顔料については、植地岳彦が矢野遺跡（植地、2003）、荒川遺跡（植地、2005）、深瀬遺跡（植地、2016）で、南武志らが深瀬遺跡の分析を行っている（河野・南、2016；南ほか、2016）。矢野遺跡では水銀朱が確認されたのは石器6点（石臼1、石杵5）、土器3点（双耳壺1、深鉢2）である。石杵2点と深鉢1点が後期初頭の第6遺構面、土器1点が第5遺構面、残りは中津式の新しい段階から福田K2式・松ノ木式が混在する第3遺構面からの出土である。荒川遺跡では1点だけ土器から水銀朱が検出されたが、小片で明確な時期は不明である。弥生時代後期から古墳時代初めの水銀朱産地として知られる若杉山遺跡にほど近い深瀬遺跡では6点の縄文土器から水銀朱が検出されている。

ほかにも、数少ない植物遺存体について、花粉分析を矢野遺跡（古環境研究所、2003b）と深瀬遺跡（パリノ・サーヴェイ、2016）で、植物珪酸体分析を大柿遺跡（古環境研究所、2002）の晩期層でも、種実同定を矢野遺跡（古環境研究所、2003c）と石井城ノ内遺跡（吉川、2003）で、樹種同定を矢野遺跡（古環境研究所、2003d）で実施している。動物遺存体についても、貝塚の発掘例が少ないため実態はよくわかっていないが、幸運にも動物骨の遺存していた加茂谷川岩陰遺跡群5号（宝伝）岩陰（門脇ほか、1999；石井、1999）で検討が行われ、3ヶ所の貝塚が見つかった三谷遺跡（徳島市佐古町）でも整理・報告が進行中である。

## 2 縄文遺跡の動態（表1、図1参照）

現時点までの出土情報から、徳島県域における縄文遺跡の動態をまとめておきたい。

県域全体を概観すると、草創期の土器は未発見で、有舌（茎）尖頭器が約20ヶ所で確認されているだけである。早期以降、少しずつ遺跡数は増え、後期前半と晩期後半

には遺跡数・出土量ともに多いが、他の時期は多いとは言えない。遺跡立地の傾向は、前期までは山間部や山麓、段丘上が主流で、中期以降、沖積地に登場し始め、やがて主流となる。縄文海進やその後の陸地化の過程が影響するものと考えられる。縄文海進についてはこれまで諸説ある<sup>3)</sup>が、現海岸から約15kmで現標高7m前後の上板町第十堰付近で2～3mの層厚があるという中部シルト層（海成層）（長谷川ほか、2009）をどう解釈するかなど、検討する必要があると考えている。

次に地理的特色から区分した小地域ごとに状況を確認しておきたい。吉野川上流域は、加茂谷川5号（宝伝）岩陰遺跡（東みよし町西庄）に早期の豊富な遺物がある。しかし山田遺跡（I）の岩陰遺跡のほかは、中期までは遺物が散見される程度である。住居遺構が検出された中期末～後期初頭の大柿遺跡、土器がややまとまったウエノ遺跡（三好市池田町）のほかは、後期も分布密度は薄い。晩期になって前葉～中葉の遺構・遺物が大量に出土した稲持遺跡（東みよし町加茂）、中葉から後半の土器や石鍬などが出土した大柿遺跡、中葉の貯蔵穴群が検出された西州津遺跡がほぼ3.5kmおきに展開する。

吉野川中流域は、有舌尖頭器の採集地点は多いものの、段丘上で中期の土器が単独出土する程度で縄文時代前半期の実態は不明である。後期には南岸の貞光前田遺跡と、向かい合う北岸の荒川遺跡で後期前葉～中葉の住居を含む遺構や大量の遺物が出土した。ほかに目立つのは後期中葉の貯蔵穴が見つかった西谷遺跡（阿波市土成町）くらいで、晩期も遺物が散見される程度である。

吉野川下流北岸域も、有舌尖頭器の採集以降は、前期に上板町の扇状地で土器が散見される程度である。その後、檜寺前谷川遺跡（鳴門市大麻町）や森崎貝塚（鳴門市大麻町）に中～後期の存続期間の長い遺跡がある。晩期は亀浦遺跡（鳴門市鳴門町）、光勝院寺内遺跡（鳴門市大麻町）、黒谷川郡頭遺跡（板野町大寺）がある。

吉野川下流域南岸は、遺構・遺物とも西日本有数の県域では突出した規模をもつ後期初頭～中葉の矢野遺跡がある。城山貝塚も断続的ながら、後～晩期の土器が出土し、県内唯一の縄文人骨が出土している。後期末から晩期、さらに弥生に接続する鮎喰川右岸で眉山北西麓の、東から三谷、南蔵本、庄・蔵本、庄、名東のいわゆる庄遺跡群は、縄文から弥生への移行を様々な観点から多くの研究がある（中村、2002など）。

眉山南麓の園瀬川・勝浦川流域には、近年になって晩期中葉から後半の下中筋遺跡や新居見遺跡が発見された。

那賀川・桑野川流域も、1965年の古屋岩陰遺跡（那賀町上那賀）以降、遺跡の有無さえわからないままであ

表1. 徳島県域の縄文時代遺跡の消長

地域	遺跡名	時期																												
		草創期	早期			前期			中期			後期					晩期			弥生										
		無文土器	大川神宮寺	黄島	糸痕文系	北白川下層・羽島下層	北白川下層・磯ノ森彦崎Z	大蔵山	鷹島	船元Ⅰ～Ⅳ式	里木Ⅱ式	北白川C・矢部奥田	矢野K	中津	福田KⅡ	松ノ木・四ツ池	彦崎KⅠ・北白川上層	彦崎KⅡ・二乗寺K	元住吉山Ⅰ	元住吉山Ⅱ	福田KⅢ・宮滝	岩田Ⅳ・滋賀里Ⅰ	岩田Ⅳ・滋賀里Ⅱ	舟津原・滋賀里Ⅲa	谷尻・篠原	前池・滋賀里Ⅳ	沢田・船橋	長原	弥生前期前半	弥生前期後半
		全期	前半	後半	前	中	後	前半	後半	初頭	前葉	中葉	後葉	末	前半	中	後半													
1	ウエノ																													
2	シンヤマ	◇																												
3	山田Ⅰ																													
4	西州津																													
5	東州津																													
6	大柿																													
7	土井																													
8	西原																													
9	中村																													
10	稲持																													
11	加茂谷1号																													
12	加茂谷2号																													
13	加茂谷5号																													
14	芝生上																													
15	大谷尻	◇																												
16	貞光前田																													
17	荒川																													
18	坊僧	◇																												
19	薬師																													
20	別所																													
21	東城山	◇																												
22	佐城Ⅱ																													
23	西長峰																													
24	日吉谷																													
25	桜ノ岡Ⅰ	◇																												
26	野神	◇																												
27	上喜来蛭子中佐古																													
28	山野上	◇																												
29	古田Ⅱ																													
30	東原吉友																													
31	前田	◇																												
32	西谷																													
33	唐戸	◇																												
34	東禅寺																													
35	長原	◇																												
36	神宅																													
37	平山	◇																												
38	黒谷川郡頭																													
39	檜寺前谷川																													
40	権尾谷	◇																												
41	ケンレイサン古墳	◇																												
42	光勝院寺内																													
43	山の下東	◇																												
44	大谷	◇																												
45	森崎貝塚																													
46	辺露																													
47	亀浦																													
48	石井城ノ内																													
49	矢野																													
50	観音寺																													
51	名東																													
52	庄																													
53	庄蔵本																													
54	南蔵本																													
55	三谷																													
56	城山貝塚																													
57	下中筋																													
58	新居見																													
59	宮ノ本																													
60	宇井谷	◇																												
61	甘歩	◇																												
62	中連																													
63	深瀬																													
64	阿井	◇																												
65	鮎川西ノ宮																													
66	古屋岩陰																													
67	蒲生田																													
68	田井																													
69	木岐	◇																												
70	大里																													

※遺物の出土量、遺構の検出量をもとに濃淡で表現している。番号は図1に対応。

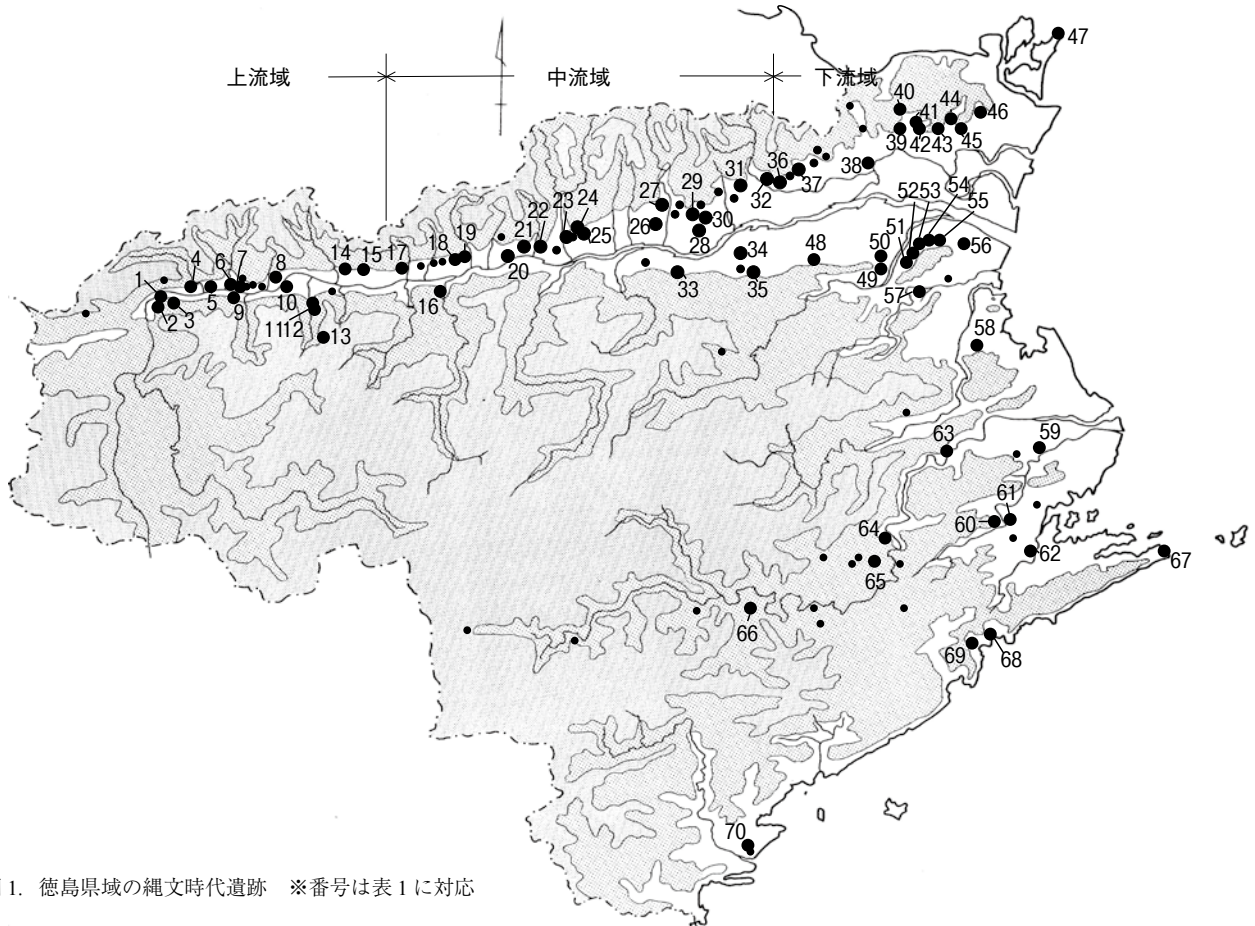


図1. 徳島県域の縄文時代遺跡 ※番号は表1に対応

たが、1990年代になって県立博物館の分布調査で可能性が広がり、近年ようやく、発掘調査例が増え、前期から後期まで断続的に存続する深瀬遺跡などで縄文時代の遺物や遺構が確認されている。

さらに南の海部海岸でも、ようやく田井遺跡で大量の遺構・遺物が確認された。他にも蒲生田遺跡（阿南市椿町）、大里遺跡（海陽町大里）などのように浜堤で縄文土器が見つかっている。

特に、田井遺跡と深瀬遺跡は重要で、これまで資料が極端に少なかった前期～中期の土器の様相がようやく少しわかるようになってきた。

### 3 2002年以降の縄文時代研究

#### (1) 学史に関連するもの（表7・8参照）

近代徳島の「石器時代」研究においても推進力となっていた鳥居龍蔵に関する研究の蓄積が進んでいる。まず鳥居研究の全体を概述しておきたい。

鳥居を再評価する気運を高めたのは、まず東京大学総合研究資料館（現総合研究博物館）の1991年企画展「乾板に刻まれた世界－鳥居龍蔵の見たアジア」である。これを受けて1993年国立民族学博物館・県立博物館共

同企画で「鳥居龍蔵の見たアジア」が開催された。徳島地方史研究会も没後50年にあたる2003年の大会テーマに選んだ（徳島地方史研究会，2004）。2006年、天羽利夫は鳥居の考古学的・人類学的業績と視点や姿勢を学ぶ場として「鳥居龍蔵を語る会」を設立し、2015年1月までに35回の講演会や現地見学会などを実施してきた（天羽・栗林，2007ほか）。その成果等は2011年から『鳥居龍蔵研究』としてまとめられ、現在4号の刊行準備が行われている。同誌では天羽と鳥居喬が、全集に採録されなかった書誌や当時の新聞報道を丹念に集めている。

2010年文化の森総合公園に移転新設された鳥居龍蔵記念博物館は約7万点の資料整理と企画展や鳥居龍蔵セミナーなどを実施しながら鳥居の業績の研究と顕彰を進めている。『徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告』を2013年に発刊し、現在3号を数えている。

小稿の文献目録（表7）では「石器時代」に関連するものだけを掲載したが、国内外の鳥居龍蔵の足跡とそれぞれの学問分野からの評価など豊富な内容となりつつある。

徳島の縄文時代関連では、1922（大正11）年に鳥居龍蔵一行が発見・調査した徳島市城山貝塚について、これまで一部の概要しか知られていなかったが、鳥居龍蔵記念博物館収蔵資料が紹介された（石尾，2013a，

2013b；長谷川，2013）。また鳥居と一緒に調査に参加した地元の森敬介・前田正一・井上達三の残した資料をまとめて筆者が発掘調査記録の復元に取り組んでいる（湯浅，2017a）。ほかに同時代を生きた喜田貞吉との関係や（中村，2011c）、笠井新也との関係や資料の紹介（笠井，2010；湯浅，2010）、当時の新聞資料の精査がある（鳥居，2011；湯浅，2017a；石井，2017）。

## (2) 徳島の縄文時代の諸課題

### ①土器編年

徳島地域の土器編年の課題は、それぞれの遺跡で出土量が少なく、比較検討が難しい状況にある。田井遺跡、深瀬遺跡の調査で前期～中期土器の出土量がやっと確保され、特に田井遺跡の土器は、久保脇美朗が報告書で行った詳細な分類と検討により、この地域のみならず、県域全体をみる時の視準となりうるものとなっている。

小稿で対象としている期間に議論となったのは、後期～晩期である。それぞれの現状について簡単にまとめておきたい。

#### a 後期（表9参照）

2003年2月、矢野遺跡の報告書が刊行された。調査当時から注目され、豊富な材料を提供するが、特に議論を醸しているのは、後期初頭中津式の成立に関することである（湯浅，2003）。一部の区域の調査段階では、層位的に土器の変遷を明確に追えると考えられたが、遺跡中心部の遺構・遺物の出土量は予想以上で、あわせて沖積地の層位も予想以上に複雑であった。それでも住居遺構の出土遺物を中心に、中期末土器群・中津式に先行する未知の土器群・既知の中津式土器群の3つに弁別できるとの予想のもとに整理した。その中心は、北白川C式の形態を残しながら、中期には独立していた縦長の胴部文様帯を連携させる、これまで知られていなかった中津式に先行する未知の土器群である。これを「矢野K式」として設定しようとしていた。しかし、各住居遺構ごとの検討では、中期末の特色の強い古相の土器と後期的特色を持つ新相の土器が混在する状況が顕著で、結果、当該層位資料をまとめて「矢野K式」と仮称する形で提唱した。しかしこの曖昧さが批判を呼び、さっそく柳澤清一は矢野C式と矢野K式に弁別する考えを表明（柳澤，2003，2004）、幸泉満夫は型式設定の曖昧さを課題とした（幸泉，2004）。2004年中四国縄文研究会は「中津式の成立と展開」をテーマとし、筆者が発表（藤川・湯浅，2004）して、討論では「矢野K式」が中心話題となったが、筆者の説明は十分な理解を得るものとはならなかった。千葉豊、幸泉満夫は曖昧さの解消を求め（千

葉，2005・幸泉，2010b）、岡田憲一は地域的特徴の抽出・型式設定の積極化の一環として、近畿・中四国地方の編年研究のひとつに取り上げた（岡田，2008）。その後も、石田由紀子（石田，2008a，2008b）、犬飼徹夫（犬飼，2009）が言及するも、矢野遺跡の土器群の重要性は認めながら、扱いにくい資料との認識される状況が続いた。その後、土器資料をすべて実見した石井寛が、「矢野K式」に至った状況に理解を示しつつ課題も述べた（石井，2015）。2016年3月に横浜市歴史博物館で行われた「称名寺貝塚と称名寺式土器」のシンポジウムで千葉豊と石田由紀子がそれぞれの観点で「矢野K式」を含む出土土器群の分類・位置づけを検討する（千葉，2016；石田2016）など、提唱者は沈黙のままであるが議論の状況は進みつつあるように見える。

#### b 晩期（表10参照）

晩期前半は中村豊がまとめたものが最新の編年案である（中村，2008a）。晩期後半凸帯文土器は県内一円に出土例も増えているが、徳島市眉山北西麓の三谷遺跡・庄遺跡・名東遺跡の出土例を中心に、勝浦康守（勝浦，2000）、中村豊（中村，2008b，2016など）が凸帯の位置に着目して編年を組み立てている。特にこの地域は庄遺跡の弥生時代前期前半の遺構・遺物との関係を重点的に考察している。他に、筆者が宮ノ本遺跡の様相のひとつとして凸帯文土器を含む晩期中葉～後半の土器を検討した。凸帯の位置などから、庄遺跡群と展開の方向が逆の長原式と宮ノ本遺跡の類似性を指摘し、三谷・庄遺跡群の独自性を浮かびあがらせた（湯浅，2009a）。

### ②石器・石材（表11参照）

石器については、氏家敏之が矢野遺跡の石器群の分析を行い、サヌカイト製剥片石器の製作工程の復元や、石錘の多さに着目している（氏家，2003）。同じ年、中四国縄文研究会で後晩期の石器を中心に分析を行った（氏家ほか，2003）。その特色は後期前半の遺跡に特徴的な石錘の多さであり、晩期は石鏃の増加・大型化と石鋸の増加、結晶片岩製スクレイパー（横刃形石器）の存在である。

石材利用については、那賀川流域の分布調査に基づき分析した高島芳弘と、氏家敏之・中村豊による打製石器石材について考察した2編がある（高島，2002；氏家・中村，2009）。また高島芳弘は、姫島産黒曜石の出土状況を集成し、整理した（高島，2009）。

### ③骨角器（表12参照）

これまで出土例に乏しく研究もなかったが、徳島市三谷遺跡の貝塚から出土した豊富な骨角器を川添和暁がま

とめた(川添, 2012, 2014).

#### ④集落(表13参照)

まだ住居遺構の報告例の少なかった段階に中村豊が集成した(中村, 2001). その後中村は, 遺跡の内容や遺物の出土状況をもとに集落の有り様を探ろうと眉山北西麓の遺跡群の分析を行い, 縄文から弥生への変遷を農耕文化の受け入れを中心に考察した(中村, 2002, 2005 ほか).

筆者は第19回中四国縄文研究会において後期の地域社会について発表(湯浅, 2008)したが, 十分な分析に至らなかった. その後, 基礎作業に立ちかえて県内の岩陰・竪穴住居遺構を集成し(湯浅, 2009b), 吉野川流域の縄文海進に留意しながら流域の集落景観をまとめた(湯浅, 2011a, 2011b). 幸泉満夫は小地域性を把握する視角として土器底部の形態に着目して, 中四国地方各地の分析を行い(幸泉, 2002), 吉野川流域についても分析した(幸泉, 2009b). 高島芳弘も中四国縄文研究会で集落の有り様を考察した(高島, 2010). また高島は県内の貝塚の集成を行った(高島, 2015). 矢野遺跡を除いて小規模な集落と想定できるが, やはり資料数が少なく十分な集落景観の復元には至っていない.

#### ⑤農耕関連(表14参照)

県内の資料集成や, この課題に対する言及は中村豊のほぼ独壇場である. 中村はまず, 晩期の打製石鍬や結晶片岩製スクレイパー(横刃形石器)を収穫具とみなして, それらの使用痕跡と出土量の増加などから農耕の可能性を探ってきた(中村, 2003 ほか). 庄・蔵本遺跡の畑作痕跡である洪水砂に覆われた畝遺構の検出を契機に, 雑穀類の検出にレプリカ法を用いることを試み, イネ・アワ・キビを三谷遺跡で, 名東遺跡で凸帯文単純期にイネ・アワを検出, 宮ノ本遺跡でも凸帯文期のイネを検出するなど, 着実に成果を得ている(中村, 2014b ほか). 分析を進めている庄・蔵本遺跡の成果と, 小規模ながら発掘を進めている三谷遺跡の追求(中村, 2017)などを含めて, 縄文-弥生移行期を中心とした農耕文化研究の進展に期待したい.

#### ⑥結晶片岩製石棒(表15参照)

これも, 晩期末の石棒に着目した中村豊のほぼ独壇場である. 三谷遺跡出土の石棒及び未製品を考え, 県内と近畿地方の石棒を集成し, 分布状況をつかんでいく(中村, 2000a, 2000b ほか)なかで, 徳島らしい特有の遺物の代表として捉えはじめ, 四国瀬戸内にその検討範囲を広げていった. そして石棒祭祀の分布範囲と, 同時期の

有柄式磨製石剣の分布範囲と比較して, 銅鐸と銅矛のそれぞれの分布圏と重なることを指摘した(中村, 2004 ほか). 石器と青銅器という全く異なるもので縄文/弥生の接続を捉えたことは注目される. 『縄文時代の考古学』(中村, 2007a)ほかにも取り上げられ, 全国的にも認知された徳島発信の学説として, 特筆に値する.

#### ⑦玉(表16参照)

球状耳飾, 硬玉製大珠, 丸玉・小玉があるが出土例は少ない. 一山典(一山, 2004), 中村豊(中村, 2009), 筆者(湯浅, 2013)がそれぞれの機会に集成した. しかし多くを語る状況にはなっていない.

### むすびにかえて

文献目録を作成しながら研究状況を概観してきた. 小稿で集めた文献の数は前稿(湯浅, 2002)で集めた明治以降の文献数を上回る. 1990年に発足した中四国縄文研究会が毎年設定するテーマが契機となった集成や研究も多くある(表2). 県域の資料増加と研究の厚みが増してきた15年間だったと言えるだろう. 今後, 蓄積されてきた資料をどのように読み解いていくか, 研究の深化と進展を願うものである.

小稿は2017年7月1日に行われた第28回中四国縄文研究会で発表した内容(湯浅, 2017)をもとに, 加筆・修正したものである. 諸賢のご批正を願いたい.

また文中, 敬称はすべて省略させていただいたことをご寛恕いただきたい. なお, 植地岳彦, 岡本治代, 齋藤美朗, 高島芳弘, 中尾賢一, 中村豊, 長谷川賢二の各氏には貴重なご助言や資料の提供をいただいたことに感謝申し上げる次第である.

#### 註

- 1) 例えば, 鳥取県では692ヶ所(幡中, 2014a), 島根県も603ヶ所(幡中, 2014b)が知られている.
- 2) 小稿において吉野川流域は地理的特色から4つの地域に区分する. 谷底平野と中・低位段丘の顕著な三好市・郡を上流域, 北岸段丘の発達した美馬市・郡および阿波市・吉野川市を中流域, 段丘地形の見られなくなる板野郡上板町以東を北岸下流域として, 対岸の名西郡石井町以東を南岸下流域として, それぞれ呼称する.
- 3) 例えば, 中尾賢一は, 海進のピークを約6000年前の藍住町住吉~徳島市国府町東黒田(現海岸から約10km)と考えた(中尾, 1997).

## 引用文献

- 天羽利夫・栗林誠治. 2007. 鳥居龍蔵を語る会. 青藍, (4): 23-24.
- 千葉豊. 2005. 西日本縄文後期土器編年研究の現状と課題. 縄文時代, (16), 201-207.
- 千葉豊. 2016. 関西地方の後期初頭土器群－研究現状と課題－. 横浜市歴史博物館編, 称名寺貝塚と称名寺式土器, p. 161-170. 横浜市歴史博物館, 横浜.
- 藤川智之・湯浅利彦. 2004. 徳島県矢野遺跡の調査から中津式を考える. 第15回中四国縄文研究会徳島実行委員会編, 中津式の成立と展開, p. 19-28. 中四国縄文研究会, 徳島.
- 長谷川賢二. 2013. 井上達三『国津神時代に於ける徳島城山遺跡地』解題. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (1), 135-147.
- 長谷川修一・矢田部龍一・望月秋利・西山賢一・山本浩司. 2009. 四国地域の地盤情報データベースの構築と各沖積地盤の特性. (社)地盤工学会四国支部編, 地盤工学会四国支部創立50周年記念出版, 50年のあゆみ, p. 91-126. (社)地盤工学会四国支部, 高松.
- 幡中光輔. 2014a. 鳥取県縄文時代文献一覧. 鳥根県古代文化センター編, 山陰地方の縄文社会, p. 179-193. 鳥根県古代文化センター. 鳥根.
- 幡中光輔. 2014b. 鳥根県縄文時代文献一覧. 鳥根県古代文化センター編, 山陰地方の縄文社会, p. 194-210. 鳥根県古代文化センター. 鳥根.
- 一山典. 2004. 四国地方のヒスイ玉研究の現状と課題. 玉文化, (1): 98-100.
- 犬飼徹夫. 2009. 縄文後期「平城式土器」の型式学的射程－その文様帯の形成過程－. 木村剛朗さん追悼論集刊行会編, 考古学の源流, p. 75 - 85. 木村剛朗さん追悼論集刊行会, 愛媛.
- 石田由紀子. 2008a. 中津式・福田KⅡ式土器. 小林達雄編, 総覧縄文土器, p. 634-641. アム・プロモーション, 東京.
- 石田由紀子. 2008b. 北白川C式から中津式へ. 関西縄文文化研究会編, 関西の縄文中期末土器－北白川C式とその周辺－, p. 49-60. 関西縄文文化研究会, 奈良.
- 石田由紀子. 2016. 北白川C式から中津式への変遷とその背景. 横浜市歴史博物館編, 称名寺貝塚と称名寺式土器, p. 139-150. 横浜市歴史博物館, 横浜.
- 石井寛. 2015. 稲ヶ原遺跡出土土器群が提起する諸問題. 横浜市歴史博物館紀要, (19): 1-36.
- 石井久夫. 1999. 加茂谷川岩陰遺跡出土の軟体動物. 同志社大学文学部考古学研究室編, 加茂谷川岩陰遺跡群, p. 107-110. 同志社大学文学部考古学研究室, 京都.
- 石井伸夫. 2017. 開発と埋蔵文化財保護をめぐる大正期の鳥居龍蔵とその周囲の動向－「勢見岩の鼻」問題に寄せて－. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (3): 49-72.
- 石尾和仁. 2013a. 特集「鳥居龍蔵と城山貝塚調査」にあたって. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (1): 3-8.
- 石尾和仁. 2013b. 資料紹介 城山貝塚調査写真. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (1): 9-133.
- 門脇秀典・松田度・松井章. 1999. 宝伝岩陰遺跡出土の動物遺存体. 同志社大学文学部考古学研究室編, 加茂谷川岩陰遺跡群, p. 101-106. 同志社大学文学部考古学研究室, 京都.
- 笠井新也. 2010. 城山貝塚発掘記. 青藍, (7): 30-40.
- 加速器分析研究所. 2014. 南蔵本遺跡に於ける放射性炭素年代 (AMS 測定). 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 南蔵本遺跡, p. 443-446. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 加速器分析研究所. 2016a. 深瀬遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定). 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 深瀬遺跡, p. 415-420. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 加速器分析研究所. 2016b. 深瀬遺跡における放射性炭素年代2 (AMS 測定). 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 深瀬遺跡, p. 421-423. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 勝浦康守. 2000. 徳島の突帯文土器と遠賀川式土器－三谷遺跡と名東遺跡の検討－. 土器持寄会論文集刊行会編, 突帯文と遠賀川, p. 453-470. 土器持寄会論文集刊行会, 愛媛.
- 河野摩耶・南武志. 2016. 深瀬遺跡出土赤色顔料の分析. 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 深瀬遺跡, p. 465-473. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 川添和暁. 2012. 三谷遺跡出土骨角器について. 青藍, (9): 10-24.
- 川添和暁. 2014. 縄文時代晩期後葉の骨角器について－徳島市三谷遺跡出土資料の分析から－. 中四国縄文研究会編, 中四国地域における縄文時代晩期後葉の歴史像, p. 133-148. 中四国縄文研究会, 徳島.
- 幸泉満夫. 2002. 縄文時代後期土器の非視覚的領域. 徳島考古学論集刊行会編, 論集徳島の考古学, p. 215-232. 徳島考古学論集刊行会, 徳島.
- 幸泉満夫. 2004. 2003年の考古学界の動向 縄文時代(中

- 国・四国). 月刊考古学ジャーナル, (516): 39-42.
- 幸泉満夫. 2009b. 徳島県吉野川流域にみる縄文時代後期社会の小地域性. 木村剛朗さん追悼論集刊行会編, 考古学の源流, p. 87-98. 木村剛朗さん追悼論集刊行会, 愛媛.
- 幸泉満夫. 2010b. コラム3 徳島県矢野遺跡. 千葉豊編, 西日本の縄文土器 後期, p. 113-114. 真陽社, 京都.
- 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2014. 南蔵本遺跡. 853p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2016. 深瀬遺跡. 789p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 古環境研究所. 2001. 徳島県貞光前田遺跡出土炭化物の放射性炭素年代測定. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 貞光前田遺跡, p. 428-429. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 古環境研究所. 2002. 大柿遺跡出土土器の植物珪酸体分析. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 大柿遺跡 I, p. 212-217. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 古環境研究所. 2003a. 矢野遺跡出土試料の放射性炭素年代測定. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 矢野遺跡 (II) (縄文時代篇), p. 511-512. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 古環境研究所. 2003b. 矢野遺跡における花粉分析. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 矢野遺跡 (II) (縄文時代篇), p. 513-514. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 古環境研究所. 2003c. 矢野遺跡における種実同定. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 矢野遺跡 (II) (縄文時代篇), p. 515-516. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 古環境研究所. 2003d. 矢野遺跡出土木材の樹種同定. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 矢野遺跡 (II) (縄文時代篇), p. 517-518. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 小松島市教育委員会. 2015. 新居見遺跡・田浦遺跡発掘調査報告書. 174p. 小松島市教育委員会, 小松島.
- 近藤玲・大北和美. 2011. 西州津遺跡. 徳島県埋蔵文化財センター年報, (21): 15.
- 栗林誠治. 2011. 小松島市新居見遺跡. 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 2011 発掘とくしま調査成果報告会, p. 14-15. 徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター, 徳島.
- 南武志・豊遙秋・高橋和也. 2016. 深瀬遺跡より出土した赤色顔料を伴う鉱石の分析. 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 深瀬遺跡, p. 474-479. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 森永速男. 2009. 宮ノ本遺跡で検出された焼土の考古・古磁気年代. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 宮ノ本遺跡 I・大原遺跡・庄境遺跡, p. 243-247. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 中村豊. 2000a. 中四国における石製呪術具の集成 四国地域 (徳島県・香川県・愛媛県・高知県) の概要. 小林青樹編, 考古学資料集 12 縄文・弥生移行期の石製呪術具 1, p. 42-63. 国立歴史民俗博物館春成研究室, 千葉.
- 中村豊. 2000b. 近畿・東部瀬戸内地域における結晶片岩製石棒の生産と流通. 小林青樹編, 考古学資料集 12 縄文・弥生移行期の石製呪術具 1, p. 69-80. 国立歴史民俗博物館春成研究室, 千葉.
- 中村豊. 2001. 四国地方における縄文時代集落の諸様相. 縄文時代文化研究会編, 列島における縄文時代集落の諸様相, p. 579-588. 縄文時代文化研究会, 埼玉.
- 中村豊. 2002. 縄文から弥生へー眉山北麓遺跡群の分析からー. 徳島考古学論集刊行会編, 論集徳島の考古学, p. 233-244. 徳島考古学論集刊行会, 徳島.
- 中村豊. 2003. 結晶片岩製打製収獲具と打製石斧. 古代文化, 55 (12): 653-666.
- 中村豊. 2004. 結晶片岩製石棒と有柄式磨製石剣. 季刊考古学, (86): 36-39.
- 中村豊. 2005. 縄文・弥生集落の地域的展開ー鮎喰川流域のフィールドからー. 立命館大学考古学論集刊行会編, 立命館大学考古学論集 IV, p. 35-46. 立命館大学考古学論集刊行会, 京都.
- 中村豊. 2007a. 縄文ー弥生移行期の大型石棒祭祀. 小杉康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編, 縄文時代の考古学 11 心と信仰, p. 283-294. 同成社, 東京.
- 中村豊. 2008a. 西日本磨研土器 (滋賀里 1~3 式土器). 小林達雄編, 総覧縄文土器, p. 782-789. アム・プロモーション, 東京.
- 中村豊. 2008b. 東部瀬戸内・紀伊水道沿岸地域における凸帯文土器ー徳島地域を中心にー. 古代文化, 60 (3): 438-445.
- 中村豊. 2009. 四国島出土の縄文時代ヒスイ製玉類. 玉文化, (6): 81-82.
- 中村豊. 2011c. 鳥居龍蔵と喜田貞吉ーその今日的意義ー. 鳥居龍蔵研究, (1): 105-112.
- 中村豊. 2014a. レプリカ法による徳島地域出土土器の種実圧痕の研究. 青藍, (10): 47-56.
- 中村豊. 2014b. 東部瀬戸内地域における縄文時代晩期後葉の歴史像. 中四国縄文研究会編, 中四国地域における縄文時代晩期後葉の歴史像, p. 1-16. 中四国

- 縄文研究会, 徳島.
- 中村豊. 2016. 凸帯文土器と遠賀川式土器－東部瀬戸内地域の資料をもとに－. 豆谷和之さん追悼事業会編, 魂の考古学, p. 23-32. 豆谷和之さん追悼事業会, 奈良.
- 中村豊. 2017. 縄文/弥生移行期における農耕の実態解明に関する研究. 96p. 徳島大学総合科学部中村豊, 徳島.
- 中尾賢一. 1997. 縄文海進と徳島平野の発達. 徳島県立博物館編, 吉野川の自然, p. 9. 徳島県立博物館, 徳島.
- 岡田憲一. 2008. 編年研究の現状と課題. 近畿・中国・四国地方. 小杉康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編, 縄文時代の考古学2 歴史のものさし, p. 180-197. 同成社, 東京.
- 遠部慎. 2011. 中・四国の縄文時代. 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 2011 発掘とくしま講演会－発掘成果からみた縄文時代のとくしま, p. 9-14. 徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター, 徳島.
- 大北和美・栗林誠治・原芳伸. 2009. 下中筋遺跡. 徳島県埋蔵文化財センター年報, (20) : 14.
- 大北和美. 2011. '10 西州津遺跡の発掘調査. 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 2011 発掘とくしま調査成果報告会, p. 5-9. 徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター, 徳島.
- パリノ・サーヴェイ. 2016. 那賀川河川改修事業(深瀬堤防)に伴う埋蔵文化財調査業務に係る土壌(花粉)分析. 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 深瀬遺跡, p. 483-490. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 白石純. 2002. 大柿遺跡出土土器の胎土分析. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 大柿遺跡 I, p. 220-226. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 白石純. 2004. 大柿遺跡出土土器の胎土分析. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 大柿遺跡, p. 359-366. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 白石純. 2008. 田井遺跡出土土器の胎土分析. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 田井遺跡, p. 173-179. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 白石純. 2015. 新居見遺跡・田浦遺跡出土遺物の胎土分析. 小松島市教育委員会編, 新居見遺跡・田浦遺跡発掘調査報告書, p. 125-133. 小松島市教育委員会, 小松島.
- 白石純. 2016. 深瀬遺跡出土の縄文土器の胎土分析. 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 深瀬遺跡, p. 491-494. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 高島芳弘・那賀川流域の縄文遺跡調査グループ. 1995. 徳島県那賀川流域における縄文遺跡の分布とその遺物. 徳島県立博物館研究報告, (5) : 75-119.
- 高島芳弘. 2002. 那賀川流域における縄文時代の石器石材について. 徳島考古学論集刊行会編, 論集徳島の考古学, p. 215-232. 徳島考古学論集刊行会, 徳島.
- 高島芳弘. 2009. 東四国の姫島産黒曜石. 木村剛朗さん追悼論集刊行会編, 考古学の源流, p. 121-130. 木村剛朗さん追悼論集刊行会, 愛媛.
- 高島芳弘. 2010. 遺構からみた中四国地方の縄文集落像. 中四国縄文研究会編, 遺構からみた中四国地方の縄文集落像, p. 39-44. 中四国縄文研究会, 島根.
- 高島芳弘. 2015. 徳島県の貝塚について. 中四国縄文研究会編, 中四国の縄文貝塚, p. 17-19・159-172. 中四国縄文研究会, 高知.
- 徳島考古学論集刊行会. 2002. 論集 徳島の考古学. 808p. 徳島考古学論集刊行会, 徳島.
- 徳島地方史研究会. 2004. 没後 50 年、今、鳥居龍蔵を考える. 史窓, (34) : 1-106.
- 鳥居喬. 2011. 新聞記事からみる鳥居龍蔵と仲間たちの足跡. 鳥居龍蔵研究, (1) : 81-102.
- 植地岳彦. 2003. 矢野遺跡出土遺物に付着する赤色物質の調査. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 矢野遺跡(Ⅱ)(縄文時代篇), p. 535-537. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 植地岳彦. 2005. 荒川遺跡出土の赤色物質付着土器の調査. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 荒川遺跡, p. 457-461. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 植地岳彦. 2016. 深瀬遺跡出土品に付着する赤色物質の材質調査. 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 深瀬遺跡, p. 480-482. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 氏家敏之. 2003. 矢野遺跡出土の縄文時代石器群について. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 矢野遺跡(Ⅱ)(縄文時代篇), p. 551-566. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 氏家敏之・中村豊・湯浅利彦. 2003. 徳島地域の縄文石器－後晩期を中心に－. 中四国縄文研究会編, 中四国地域における縄文時代石器の実相, p. 1-14. 中四国縄文研究会, 愛媛.
- 氏家敏之・中村豊. 2009. 徳島地域の打製石器石材利用の様相. 中四国縄文研究会編, 環瀬戸内地域の打製石器石材利用, p. 39-44. 中四国縄文研究会・第2回西日本縄文研究会合同大会. 広島.
- 藁科哲男. 2002. 大柿遺跡出土のサヌカイト製遺物の石材産地分析. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 大柿遺跡 I, p. 197-211. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 藁科哲男. 2003a. 矢野遺跡出土石器. 石片の原材産地

- 分析. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 矢野遺跡(Ⅱ)(縄文時代篇), p. 517-534. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 藁科哲男. 2003b. 石井城ノ内遺跡出土サヌカイト製石器. 剥片の原材産地分析. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 石井城ノ内遺跡 石井曾我団地地区, p. 439-452. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 藁科哲男. 2004. 大柿遺跡出土サヌカイト製遺物の原材産地分析. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 大柿遺跡, p. 367-381. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 藁科哲男. 2016a. 深瀬遺跡出土ヒスイ製丸玉の原材産地分析. 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 深瀬遺跡, p. 424-444. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 藁科哲男. 2016b. 深瀬遺跡出土サヌカイト製遺物の産地同定. 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 深瀬遺跡, p. 445-464. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 柳澤清一. 2003. 瀬戸内における縄文中期末葉編年の再検討. 茨城県考古学協会誌, (15): 45-73.
- 柳澤清一. 2004. 東海・中部地方から見た縄文時代中期末葉編年の検討－林ノ峰貝塚から用田鳥居前遺跡. そして矢野遺跡へ－. 茨城県考古学協会誌, (16): 35-66.
- 吉川純子. 2003. 石井城ノ内遺跡曾我団地地区より出土した植物遺体. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 石井城ノ内遺跡 石井曾我団地地区, p. 409-418. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 湯浅利彦. 2002. 縄文時代. 徳島考古学論集刊行会編, 論集徳島の考古学, p. 29-62. 徳島考古学論集刊行会, 徳島.
- 湯浅利彦. 2003. 矢野遺跡出土土器からみた中津式の成立. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 矢野遺跡(Ⅱ)(縄文時代篇), p. 583-597. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 湯浅利彦. 2008. 徳島県における縄文時代後期の地域社会の展開. 中四国縄文研究会編, 中四国における縄文時代後期の地域社会の展開, p. 11-22. 中四国縄文研究会, 香川.
- 湯浅利彦. 2009a. 縄文時代の様相. 財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 宮ノ本遺跡Ⅰ・大原遺跡・庄境遺跡, p. 171-175. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 湯浅利彦. 2009b. 徳島県域における縄文時代住居遺構の様相. 一山典還暦記念論集刊行会編, 考古学と地域文化, p. 363-376. 一山典還暦記念論集刊行会, 徳島.
- 湯浅利彦. 2010. 「城山貝塚発掘記」解題. 青藍, (7): 41-46.
- 湯浅利彦. 2011a. 吉野川流域の縄文集落. 季刊考古学, (114): 29-32.
- 湯浅利彦. 2011b. 吉野川流域の縄文集落と景観. 公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター編, 2011 発掘とくしま講演会－発掘成果からみた縄文時代のとくしま, p. 15-16. 徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター, 徳島.
- 湯浅利彦. 2013. 徳島県域における縄文時代の玉文化. 徳島市立考古資料館編, 玉の魅力に迫る－四国と周辺玉生産と玉文化－, p. 13-20. 徳島市立考古資料館, 徳島.
- 湯浅利彦. 2017a. 徳島市城山貝塚発掘調査の復元的研究(上)－鳥居龍蔵等による1922(大正11)年発掘調査の出土遺物の様相－. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (3): 1-48.
- 湯浅利彦. 2017b. 徳島県域における縄文時代研究の現状と課題. 中四国縄文研究会編, 中四国縄文時代研究の現状と課題, p. 41-55. 中四国縄文研究会, 香川.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2001b. 貞光前田遺跡. 719p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2002a. 大柿遺跡Ⅰ. 1724p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2002b. 土井遺跡. 570p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2003a. 矢野遺跡(Ⅱ)(縄文時代篇). 903p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2003b. 石井城ノ内遺跡 石井曾我団地地区. 768p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2004a. 西原遺跡. 488p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2004b. 大柿遺跡. 698p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2005a. 試掘調査総括・清水遺跡他. 89p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2005b. 荒川遺跡. 844p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2005c. 中谷山古墳群(Ⅰ)他. 2360p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2008. 田井遺跡. 352p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2009a. 宮ノ本遺跡Ⅰ・大原遺跡・庄境遺跡. 1001p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 2009b. 観音寺遺跡Ⅲ. 1846p. 徳島県教育委員会, 徳島.

表2. 中四国縄文研究会と徳島

回数	年	開催地	テーマ	徳島県発表者	
1	1990	香川	中四国における縄文後期土器の編年と地域性	なし	
2	1991	広島	中四国における縄文早期土器の編年と地域性	なし	
3	1992	島根	中四国における縄文前期土器の編年と地域性	勝浦康守	徳島県三谷遺跡
4	1993	岡山	縄文中期土器の諸問題	なし	中期土器集成：久保脇・高島・辻・氏家（集成）
5	1994	愛媛	緑帯文土器の諸問題	なし	
6	1995	徳島	縄文時代晩期の土器編年の諸問題 －突帯文の発生と展開を中心として	湯浅利彦	徳島県三加茂町 稲持遺跡
				勝浦康守	徳島県徳島市 三谷遺跡
7	1996	鳥取	縄文時代の低湿地・沿岸部遺跡の諸問題	藤川智之 稲村秀介	徳島市・矢野遺跡
8	1997	高知	中四国の縄文時代草創期の土器と石器	氏家敏之	徳島県矢野遺跡
9	1998	山口	本州西部地域における文化交流の諸問題	なし	
10	1999	香川	中四国縄文時代研究の現状と課題	湯浅利彦	徳島県縄文時代研究の現状と課題
11	2000	広島	縄文時代における山間地域の諸問題	なし	
12	2001	島根	三瓶山周辺の縄文遺跡	なし	
13	2002	岡山	生業をめぐる諸問題－瀬戸内の縄文と弥生－	なし	
14	2003	愛媛	中四国地域における縄文時代石器の実相	氏家敏之 中村豊 湯浅利彦	徳島地域の縄文石器－後晩期を中心に－
15	2004	徳島	中津式の成立と展開	藤川智之 湯浅利彦	徳島県矢野遺跡の調査から中津式を考える
16	2005	鳥取	縄文時代晩期の山陰地方	なし	
17	2006	高知	早期研究の現状と課題－前葉を中心に－	なし	
18	2007	山口	縄文後晩期の西部瀬戸内地方	なし	
19	2008	香川	中四国における縄文時代後期の地域社会の展開	湯浅利彦	徳島県における縄文時代後期の地域社会の展開
20	2009	広島	環瀬戸内地域の打製石器石材利用	氏家敏之 中村豊	徳島地域の打製石器石材利用の様相
21	2010	島根	遺構からみた中四国地方の縄文集落像	高島芳弘	遺構から見た徳島県の縄文集落像
22	2011	岡山	中四国地方縄文時代の精神文化	中村豊	四国地域における縄文時代の精神文化
23	2012	愛媛	初期緑帯文土器群の成立と展開	遠部慎	東四国域における初期緑帯文土器群の様相
24	2013	鳥取	中四国地方における縄文時代の落とし穴	なし	
25	2014	徳島	中四国地域における縄文時代晩期後葉の歴史像	中村豊	東部瀬戸内地域における縄文時代晩期後葉の歴史像
				丸山真史	徳島市三谷遺跡出土の動物遺存体からみた縄文時代晩期後葉の生業
				川添和暁	縄文時代晩期後葉の骨角器について－徳島市三谷遺跡出土資料の分析から－
26	2015	高知	中四国の縄文貝塚	高島芳弘	徳島県の貝塚について
27	2016	山口	中四国地方における縄文時代の地域間交流	なし	
28	2017	香川	中四国縄文時代研究の現状と課題	湯浅利彦	徳島県域における縄文時代研究の現状と課題

表3. 縄文時代概観関係文献一覧

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集/発行
1	湯浅利彦	2002	縄文時代	論集徳島の考古学	29-62	徳島考古学論集刊行会
2	中村豊	2005	縄文時代	神山町史 上巻	148-163	神山町
3	長谷川修一・矢田部龍一・望月秋利・西山賢一・山本浩司	2009	四国地域の地盤情報データベースの構築と各沖積地盤の特性	地盤工学会四国支部創立50周年記念出版、50年のあゆみ	91-126	(社)地盤工学会四国支部
4	久保脇美朗	2011	発掘成果からみた縄文時代の徳島	2011 発掘とくしま講演会－発掘成果からみた縄文時代のとくしま	1-8	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
5	遠部慎	2011	中・四国の縄文時代	2011 発掘とくしま講演会－発掘成果からみた縄文時代のとくしま	9-14	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
6	湯浅利彦	2017	徳島県域における縄文時代研究の現状と課題	中四国縄文時代研究の現状と課題	41-55	中四国縄文研究会

表 4. 1 - (1) (2) 調査報告書一覧

	編集・発行	発行年	書名	総頁
1	同志社大学文学部考古学研究室	1999	徳島県三好郡三加茂町所在加茂谷川岩陰遺跡群	140
2	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2001a	四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 17 薬師遺跡 坊僧遺跡	358
3	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2001b	貞光前田遺跡 - 西部テクノスクール建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -	719
4	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2002a	四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 18 大柿遺跡 I	1724
5	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2002b	四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 19 土井遺跡	570
6	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2002c	四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 20 吉水遺跡	246
7	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2003a	矢野遺跡 (II) (縄文時代篇) - 一般国道 192 号徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -	903
8	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2003b	石井城ノ内遺跡 石井曾我団地地区 - 県営住宅 (石井曾我団地) 建設工事関連埋蔵文化財発掘調査報告 -	768
9	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2004a	四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 26 西原遺跡	488
10	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2004b	大柿遺跡 - 県代行緊急地方道路整備事業 (町道光下新町線) 関連埋蔵文化財発掘調査報告書 -	698
11	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2005a	四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 29 試掘調査総括・清水遺跡・塩塚遺跡・お塚古墳・供養地遺跡・山田遺跡 (II)・山田遺跡 (I)・馬路遺跡・和田遺跡	389
12	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2005b	四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 32 荒川遺跡	844
13	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2005c	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 中谷山古墳群 (I) 他	2360
14	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2008	田井遺跡 - 一般国道 55 号日和佐道路建設に伴う発掘調査報告 -	352
15	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2009a	宮ノ本遺跡 I・大原遺跡・庄境遺跡 - 桑野川床上浸水対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 -	1001
16	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2009b	観音寺遺跡 III - 一般国道 192 号徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -	1846
17	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2014	南蔵本遺跡 - 県立中央病院改築事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 -	853
18	小松島市教育委員会	2015	新居見遺跡・田浦遺跡発掘調査報告書 - 市道田浦 29・41・42・43 号線道路工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書 -	174
19	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会	2016	深瀬遺跡 - 那賀川河川改修事業 (深瀬堤防) に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -	789

表 5. 1 - (1) 概要報告等関連文献一覧

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	中村豊・岡山真知子・三宅良明	2000	神山町における考古学的研究	阿波学会紀要 第 46 号神山町	209-216	阿波学会 / 徳島県立図書館
2	幸泉満夫	2001	相生町における縄文遺跡の研究	阿波学会紀要 第 47 号相生町	195-206	阿波学会 / 徳島県立図書館
3	高島芳弘・天羽利夫・森清治	2002	鳴門市亀浦遺跡の発見とその漁業関係遺物について	徳島県立博物館研究報告 12 号	35-46	徳島県立博物館
4	大北和美・栗林誠治・原芳伸	2009	下中筋遺跡	徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 20	14	財団法人徳島県埋蔵文化財センター
5	近藤玲・大北和美	2011	西州津遺跡	徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 21	15	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター
6	大北和美	2011	'10 西州津遺跡の発掘調査	2011 発掘とくしま調査成果報告会	5-9	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
7	栗林誠治	2011	小松島市新居見遺跡	2011 発掘とくしま調査成果報告会	14-15	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
8	島田豊彰	2011	四国初 縄文時代の石製丸玉 - 阿南市深瀬遺跡	季刊考古学 第 117 号	91-94	雄山閣
9	中村豊	2016	徳島市三谷遺跡の研究 - 徳大 1・2 次発掘調査成果から -	国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 2	3-24	国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室

表 6. 1 - (3) 自然科学分析の個別報告一覧

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	門脇秀典・松田度・松井章	1999	宝伝岩陰遺跡出土の動物遺存体	加茂谷川岩陰遺跡群	101-106	同志社大学文学部考古学研究室
2	石井久夫	1999	加茂谷川岩陰遺跡出土の軟体動物	加茂谷川岩陰遺跡群	107-110	同志社大学文学部考古学研究室
3	古環境研究所	2001	徳島県貞光前田遺跡出土炭化物の放射性炭素年代測定	貞光前田遺跡	428-429	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
4	藁科哲男	2002	大柿遺跡出土のサヌカイト製遺物の石材産地分析	大柿遺跡 I	197-211	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
5	古環境研究所	2002	大柿遺跡出土土器の植物珪酸体分析	大柿遺跡 I	212-217	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
6	白石純	2002	大柿遺跡出土土器の胎土分析	大柿遺跡 I	220-226	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
7	古環境研究所	2003a	矢野遺跡出土試料の放射性炭素年代測定	矢野遺跡 (II) (縄文時代篇)	511-512	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
8	古環境研究所	2003b	矢野遺跡における花粉分析	矢野遺跡 (II) (縄文時代篇)	513-514	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
9	古環境研究所	2003c	矢野遺跡における種実同定	矢野遺跡 (II) (縄文時代篇)	515-516	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
10	古環境研究所	2003d	矢野遺跡出土木材の樹種同定	矢野遺跡 (II) (縄文時代篇)	517-518	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
11	藁科哲男	2003a	矢野遺跡出土石器石片の原材産地分析	矢野遺跡 (II) (縄文時代篇)	517-534	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
12	植地岳彦	2003	矢野遺跡出土遺物に付着する赤色物質の調査	矢野遺跡 (II) (縄文時代篇)	535-537	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
13	吉川純子	2003	石井城ノ内遺跡曾我団地地区より出土した植物遺体	石井城ノ内遺跡 石井曾我団地地区	409-418	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
14	藁科哲男	2003b	石井城ノ内遺跡出土サヌカイト製石器剥片の原材産地分析	石井城ノ内遺跡 石井曾我団地地区	439-452	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
15	白石純	2004	大柿遺跡出土土器の胎土分析	大柿遺跡	359-366	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
16	藁科哲男	2004	大柿遺跡出土サヌカイト製遺物の原材産地分析	大柿遺跡	367-381	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
17	パリノ・サーヴェイ	2005	荒川遺跡の土器付着物分析	荒川遺跡	450-456	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
18	植地岳彦	2005	荒川遺跡出土の赤色物質付着土器の調査	荒川遺跡	457-461	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
19	白石純	2008	田井遺跡出土土器の胎土分析	田井遺跡	173-179	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
20	森永速男	2009	宮ノ本遺跡で検出された焼土の考古・古磁気年代	宮ノ本遺跡 I・大原遺跡・庄境遺跡	243-247	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
21	加速器分析研究所	2014	南蔵本遺跡に於ける放射性炭素年代 (AMS 測定)	南蔵本遺跡	443-446	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
22	元興寺文化財研究所	2014	南蔵本遺跡出土漆弓 (弥生時代) の成分分析について	南蔵本遺跡 -	447-448	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
23	白石純	2015	新居見遺跡・田浦遺跡出土遺物の胎土分析	新居見遺跡・田浦遺跡発掘調査報告書	125-133	小松島市教育委員会
24	加速器分析研究所	2016a	深瀬遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)	深瀬遺跡	415-420	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
25	加速器分析研究所	2016b	深瀬遺跡における放射性炭素年代 2 (AMS 測定)	深瀬遺跡	421-423	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
26	藁科哲男	2016a	深瀬遺跡出土ヒスイ製丸玉の原材産地分析	深瀬遺跡	424-444	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
27	藁科哲男	2016b	深瀬遺跡出土サヌカイト製遺物の産地同定	深瀬遺跡	445-464	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
28	河野摩耶・南武志	2016	深瀬遺跡出土赤色顔料の分析	深瀬遺跡	465-473	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
29	南武志・豊遙秋・高橋和也	2016	深瀬遺跡より出土した赤色顔料を伴う鉱石の分析	深瀬遺跡	474-479	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
30	植地岳彦	2016	深瀬遺跡出土品に付着する赤色物質の材質調査	深瀬遺跡	480-482	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
31	パリノ・サーヴェイ	2016	那賀川河川改修事業 (深瀬堤防) に伴う埋蔵文化財調査業務に係る土壌 (花粉) 分析	深瀬遺跡	483-490	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
32	白石純	2016	深瀬遺跡出土の縄文土器の胎土分析	深瀬遺跡	491-494	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会

徳島県域における縄文時代研究の現状と課題

表 7. 3 - (1) 学史 (鳥居龍蔵) 関連文献一覧

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	徳島地方史研究会	2004	没後 50 年、今、鳥居龍蔵を考える	史窓 第 34 号	1-106	徳島地方史研究会
2	天羽利夫・栗林誠治	2007	鳥居龍蔵を語る会	青藍 第 4 号	23-24	考古フォーラム蔵本
3	石尾和仁	2009	鳥居龍蔵と徳島	史窓 第 39 号	54-76	徳島地方史研究会
4	藤田富士夫	2009	玦飾研究史上より見たる鳥居龍蔵博士	考古学と地域文化	599-616	一山典還暦記念論集刊行会
5	原多賀子	2009	徳島と鳥居龍蔵	考古学と地域文化	617-622	一山典還暦記念論集刊行会
6	天羽利夫	2011	鳥居龍蔵と「徳島人類学取調仲間」	鳥居龍蔵研究 創刊号	21-38	鳥居龍蔵を語る会
7	鳥居喬	2011	新聞記事からみる鳥居龍蔵と仲間たちの足跡	鳥居龍蔵研究 創刊号	81-102	鳥居龍蔵を語る会
8	中村豊	2011	鳥居龍蔵と喜田貞吉 - その今日の意義 -	鳥居龍蔵研究 創刊号	105-112	鳥居龍蔵を語る会
9	ラファエル・アバ	2011	鳥居龍蔵の「有史以前論」と近代日本における考古学思想の転換	鳥居龍蔵研究 創刊号	113-127	鳥居龍蔵を語る会
10	石尾和仁	2013a	特集「鳥居龍蔵と城山貝塚調査」にあたって	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告 第 1 号	3-8	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
11	石尾和仁	2013b	資料紹介 城山貝塚調査写真	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告 第 1 号	9-133	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
12	長谷川賢二	2013	井上達三『国津神時代ニ於ケル徳島城山遺跡地』解題	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告 第 1 号	135-147	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
13	中村豊	2013	地域動向(四国地方)-「鳥居龍蔵を語る会」の活動紹介	縄文時代 第 24 号	173-175	縄文時代文化研究会
14	ラファエル・アバ	2013	鳥居龍蔵の 2 つの日本人起源論 - 「日本民族」と「アイヌ」との関係をめぐる	鳥居龍蔵研究 第 2 号	109-120	鳥居龍蔵を語る会
15	天羽利夫	2015	鳥居龍蔵著『有史以前の日本』の刊行状況	鳥居龍蔵研究 第 3 号	138	鳥居龍蔵を語る会
16	湯浅利彦	2017	徳島市城山貝塚発掘調査の復元的研究(上) - 鳥居龍蔵等による 1922(大正 11)年発掘調査の出土遺物の様相 -	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告 第 3 号	1-48	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
17	石井伸夫	2017	開発と埋蔵文化財保護をめぐる大正期の鳥居龍蔵とその周囲の動向 - 「勢見岩の鼻」問題に寄せて -	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告 第 3 号	49-72	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

表 8. 3 - (1) 学史 (喜田貞吉・笠井新也) 関連文献一覧

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	高島芳弘	2005	喜田貞吉と亀ヶ岡文化の世界	縄文之美 - 亀ヶ岡文化の世界	53-55	徳島県立博物館
2	中村豊	2006	考古学からみた喜田貞吉の評価	史窓 第 36 号	20-25	徳島地方史研究会
3	笠井新也	2010	城山貝塚発掘記	青藍 第 7 号	30-40	考古フォーラム蔵本
4	湯浅利彦	2010	「城山貝塚発掘記」解題	青藍 第 7 号	41-46	考古フォーラム蔵本

表9. 1 - (2) ①土器編年論 (a 後期) 関連文献一覧

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	幸泉満夫	2002	縄文時代後期土器の非視覚的領域	論集徳島の考古学	215-232	徳島考古学論集刊行会
2	柳澤清一	2002	西日本における縄文後期初頭編年の検討 - 四国から瀬戸内と近畿の編年を結ぶ -	四国とその周辺の考古学	267-286	犬飼徹夫古希記念論集刊行会
3	藤川智之	2003	土器の分析	矢野遺跡 (II) (縄文時代篇)	567-582	財団法人徳島埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
4	湯浅利彦	2003	矢野遺跡出土土器からみた中津式の成立	矢野遺跡 (II) (縄文時代篇)	583-597	財団法人徳島埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
5	柳澤清一	2003	瀬戸内における縄文中期末葉編年の再検討	茨城県考古学協会誌 第15号	45-73	茨城県考古学協会
6	幸泉満夫	2004	2003年の考古学界的動向 縄文時代 (中国・四国)	月刊考古学ジャーナル No. 516	39-42	ニュー・サイエンス社
7	藤川智之・湯浅利彦	2004	徳島県矢野遺跡の調査から中津式を考える	中津式の成立と展開	19-28	中四国縄文研究会
8	湯浅利彦	2004	資料集成 徳島県域	中津式の成立と展開	145-156	中四国縄文研究会
9	柳澤清一	2004	東海・中部地方から見た縄文時代中期末葉編年の検討 - 林ノ峰貝塚から用田鳥居前遺跡、そして矢野遺跡へ -	茨城県考古学協会誌 第16号	35-66	茨城県考古学協会
10	千葉豊	2005	西日本縄文後期土器編年研究の現状と課題	縄文時代 第16号	201-207	縄文時代文化研究会
11	柳澤清一	2006	縄文時代中・後期の編年学的研究 - 列島における小細別編年網の構築をめざして -	千葉大学考古学研究叢書3	940	柳澤清一 / 千葉大学
12	岡田憲一	2008	編年研究の現状と課題 近畿・中国・四国地方	縄文時代の考古学2 歴史のものさし	180-197	小杉康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一 / 同成社
13	石田由紀子	2008	中津式・福田KⅡ式土器	総覧縄文土器	634-641	小林達雄 / アム・プロモーション
14	石田由紀子	2008	北白川C式から中津式へ	関西の縄文中期末土器 - 北白川C式とその周辺 -	49-60	関西縄文文化研究会
15	幸泉満夫	2008	西からの視点 - 中国・四国地方の様相 -	関西の縄文中期末土器 - 北白川C式とその周辺 -	79-96	関西縄文文化研究会
16	幸泉満夫	2009a	徳島県域の刻目隆帯文系土器	考古学と地域文化	1-8	一山典遷暦記念論集刊行会
17	幸泉満夫	2009b	徳島県吉野川流域にみる縄文時代後期社会の小地域性	考古学の源流	87-98	木村剛朗さん追悼論集刊行会
18	犬飼徹夫	2009	縄文後期「平城式土器」の型式学的射程 - その文様帯の形成過程 -	考古学の源流	75 - 85	木村剛朗さん追悼論集刊行会
19	柳澤清一	2009	中津式の9細分案と福田K2式の成立	考古学の源流	65-74	木村剛朗さん追悼論集刊行会
20	幸泉満夫	2010a	四国	西日本の縄文土器後期	69-112	千葉豊 / 真陽社
21	幸泉満夫	2010b	コラム3 徳島県矢野遺跡	西日本の縄文土器後期	113-114	千葉豊 / 真陽社
22	幸泉満夫	2012	西日本在地系縄文土器の研究 - 刻目素文系土器の提唱とその実相解明 -	縄文時代 第23号	43-69	縄文時代文化研究会
23	遠部慎	2012	東四国域における初期縁帯文土器群の様相	初期縁帯文土器群の成立と展開	31-34	中四国縄文研究会
24	千葉豊	2013	地域の様相 - 中国・四国	講座日本の考古学 第3巻 縄文時代上	475-507	今村啓爾・泉拓良 / 青木書店
25	石井寛	2015	稲ヶ原遺跡出土土器群が提起する諸問題	横浜市歴史博物館紀要 第19号	1-36	(公財)横浜市ふるさと歴史財団
26	千葉豊	2016	関西地方の後期初頭土器群 - 研究現状と課題 -	称名寺貝塚と称名寺式土器	161-170	横浜市歴史博物館
27	石田由紀子	2016	北白川C式から中津式への変遷とその背景	称名寺貝塚と称名寺式土器	139-150	横浜市歴史博物館
28	古谷渉	2016	土器型式編年論 後期	縄文時代 第27号	170-172	縄文時代文化研究会

徳島県域における縄文時代研究の現状と課題

表 10. 3 - (2) ①土器編年論 (b 晩期) 関連文献一覧

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	勝浦康守	2000	徳島の突帯文土器と遠賀川式土器 - 三谷遺跡と名東遺跡の検討 -	突帯文と遠賀川	453-470	土器持寄会論文集刊行会
2	中村豊	2006	四国地域の亀ヶ岡式土器	月刊考古学ジャーナル No. 549	17-20	ニュー・サイエンス社
3	中村豊	2008a	西日本磨研土器 (滋賀里 1 ~ 3 式土器)	総覧縄文土器	782-789	小林達雄 / アム・プロモーション
4	中村豊	2008b	東部瀬戸内・紀伊水道沿岸地域における凸帯文土器 - 徳島地域を中心に -	古代文化 第 60 巻 第 3 号	438-445	古代学協会
5	湯浅利彦	2009	縄文時代の様相	宮ノ本遺跡 I ・大原遺跡・庄境遺跡	171-175	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
6	中村豊	2013	再論凸帯文土器と遠賀川式土器 - 東部瀬戸内・紀伊水道沿岸地域の土器から -	弥生土器研究フォーラム	125-151	弥生土器研究フォーラム
7	岡田憲一	2014	瀬戸内東辺における凸帯文土器と遠賀川式土器	中四国地域における縄文時代晩期後葉の歴史像	149-164	中四国縄文研究会
8	中村豊	2016	凸帯文土器と遠賀川式土器 - 東部瀬戸内地域の資料をもとに -	魂の考古学	23-32	豆谷和之さん追悼事業会

表 11. 3 - (2) ②石器・石材関連文献一覧

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	高島芳弘	2002	那賀川流域における縄文時代の石器石材について	論集徳島の考古学	215-232	徳島考古学論集刊行会
2	氏家敏之	2003	矢野遺跡出土の縄文時代石器群について	矢野遺跡 (II) (縄文時代篇)	551-566	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
3	氏家敏之・中村豊・湯浅利彦	2003	徳島地域の縄文石器 - 後晩期を中心に -	中四国地域における縄文時代石器の実相	1-14	中四国縄文研究会
4	徳島県立博物館	2004		企画展「石とくらし」展示図録 石とくらし	31	徳島県立博物館
5	幸泉満夫	2008	西日本における打製石鋸の出現	地域文化の考古学	23-46	下条信行先生退任記念事業会
6	中村豊	2008	四国島東部地域における片岩製石器生産の展開	吾々の考古学	77-93	和田晴吾先生還暦記念論集刊行会
7	氏家敏之・中村豊	2009	徳島地域の打製石器石材利用の様相	環瀬戸内地域の打製石器石材利用	39-44	中四国縄文研究会・第 2 回西日本縄文研究会合同大会
8	氏家敏之・中村豊	2009	徳島地域の打製石器石材利用をめぐる資料集成	環瀬戸内地域の打製石器石材利用	45-64	中四国縄文研究会・第 2 回西日本縄文研究会合同大会
9	高島芳弘	2009	東四国の姫島産黒曜石	考古学の源流	121-130	木村剛朗さん追悼論集刊行会

表 12. 3 - (2) ③骨角器関連文献一覧

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	川添和暁	2012	三谷遺跡出土骨角器について	青藍 9 号	10-24	考古フォーラム蔵本
2	川添和暁	2014	縄文時代晩期後葉の骨角器について - 徳島市三谷遺跡出土資料の分析から -	中四国地域における縄文時代晩期後葉の歴史像	133-148	中四国縄文研究会

表 13. 3 - (2) ④集落関連文献一覧

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	中村豊	2001	四国地方における縄文時代集落の諸様相	列島における縄文時代集落の諸様相	579-588	縄文時代文化研究会
2	中村豊	2002	縄文から弥生へー眉山北麓遺跡群の分析からー	論集徳島の考古学	233-244	徳島考古学論集刊行会
3	中村豊	2005	縄文・弥生集落の地域的展開ー鮎喰川流域のフィールドからー	立命館大学考古学論集IV	35-46	立命館大学考古学論集刊行会
4	湯浅利彦	2008	徳島県における縄文時代後期の地域社会の展開	中四国における縄文時代後期の地域社会の展開	11-22	中四国縄文研究会
5	湯浅利彦	2009	徳島県域における縄文時代住居遺構の様相	考古学と地域文化	363-376	一山典遷暦記念論集刊行会
6	高島芳弘	2010	遺構からみた中四国地方の縄文集落像	遺構からみた中四国地方の縄文集落像	39-44	中四国縄文研究会
7	湯浅利彦	2011a	吉野川流域の縄文集落	季刊考古学 第114号	29-32	雄山閣
8	湯浅利彦	2011b	吉野川流域の縄文集落と景観	2011 発掘とくしま講演会ー発掘成果からみた縄文時代のくしま	15-16	財団法人徳島県埋蔵文化財センター・徳島県教育委員会
9	高島芳弘	2015	徳島県の貝塚について	中四国の縄文貝塚	17-19・159-172	中四国縄文研究会

表 14 3 - (2) ⑤農耕関連文献

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	中村豊	2001	四国瀬戸内側	西日本における縄文時代農耕について	13-24	古代学教会四国支部
2	中村豊	2003	結晶片岩製打製収獲具と打製石斧	古代文化 第55巻 第12号	653-666	古代学協会
3	中村豊	2009	V・G・チャイルドとK・A・ウィットフォーゲルー縄文から弥生への変化を考えるにあたってー	青藍 第6号	1-13	考古フォーラム蔵本
4	中村豊	2010	徳島市庄・蔵本遺跡における弥生時代前期の雑穀資料	雑穀研究 No. 25	1-8	雑穀研究会
5	中村豊・石尾和仁・松下師一・佐藤正志	2011	吉野川流域における農耕文化の成立と展開ー畑作文化の形成ー	阿波・歴史と民衆IV 生業から見る地域社会ーたくましき人々ー	9-38	徳島地方史研究会・教育出版センター
6	中村豊・中沢道彦・遠部慎	2012a	徳島県三谷遺跡における縄文時代晩期末の雑穀	雑穀研究 No. 27	10-15	雑穀研究会
7	中村豊・遠部慎・中沢道彦	2012b	レプリカ法による徳島県三谷遺跡出土土器の種実圧痕の研究	青藍 第9号	25-37	考古フォーラム蔵本
8	中村豊	2013a	日本列島西部における農耕開始期の一様相	私の考古学	137-153	丹羽佑一先生退任記念事業会
9	中村豊	2013b	レプリカ法の製菓と農耕の伝播と受容ー四国ー	シンポジウム予稿集レプリカ法の開発は何を明らかにしたのか	20-27	明治大学日本先史文化研究所
10	中村豊	2014a	レプリカ法による徳島地域出土土器の種実圧痕の研究	青藍 第10号	47-56	考古フォーラム蔵本
11	近藤玲	2014	南蔵本遺跡出土の圧痕土器について	青藍 第10号	42-46	考古フォーラム蔵本
12	中村豊	2014b	東部瀬戸内地域における縄文時代晩期後葉の歴史像	中四国地域における縄文時代晩期後葉の歴史像	1-16	中四国縄文研究会
13	丸山真史	2014	徳島市三谷遺跡出土の動物遺存体からみた縄文時代晩期後葉の生業	中四国地域における縄文時代晩期後葉の歴史像	129-132	中四国縄文研究会
14	中村豊	2015a	縄文晩期から弥生前期の農耕についてー東部瀬戸内地域を中心にー	みずほ別冊 No.2	191-200	大和弥生文化の会
15	中村豊	2015b	近畿・四国地域における農耕突入期の様相	シンポジウム八ヶ岳山麓における縄文時代の終末と生業変化	10-15	明治大学日本先史文化研究所
16	中村豊	2017	縄文 / 弥生移行期における農耕の実態解明に関する研究 平成 26-28 日本学術振興会科学研究費補助金基礎研究 (C)		96	徳島大学総合科学部 中村豊

表 15. 3 - (2) ⑥結晶片岩製石棒関連文献

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	中村豊	2000a	中四国における石製呪術具の集成 四国地域(徳島県・香川県・愛媛県・高知県)の概要	考古学資料集 12 縄文・弥生移行期の石製呪術具 1	42-63	国立歴史民俗博物館春成研究室
2	中村豊	2000b	近畿・東部瀬戸内地域における結晶片岩製石棒の生産と流通	考古学資料集 12 縄文・弥生移行期の石製呪術具 1 -	69-80	国立歴史民俗博物館春成研究室
3	中村豊	2001a	西日本における結晶片岩製石棒の集成および生産と流通に関する研究	「日本人および日本文化の起源に関する学際的研究」成果報告書	147-148	国立歴史民俗博物館春成研究室
4	中村豊	2001b	近畿・瀬戸内地域における石棒の終焉 - 縄文から弥生 -	縄文・弥生移行期の石製呪術具 3	49-86	国立歴史民俗博物館春成研究室
5	中村豊	2002	結晶片岩製石棒からみた縄文時代の終末	究班 2 埋蔵文化財研究会 25 周年記念論文集 No. 2	21-30	埋蔵文化財研究会
6	中村豊	2003	四国地域の石棒・石刀	立命館大学考古学論集Ⅲ	271-284	立命館大学考古学論集刊行会
7	中村豊	2004	結晶片岩製石棒と有柄式磨製石剣	季刊考古学 第 86 号	36-39	雄山閣
8	寺前直人	2005	弥生時代における石棒の継続と変質	待兼山考古学論集 - 都出比呂志先生退任記念	129-148	大阪大学考古学友の会
9	中村豊	2005a	列島西部における石棒の終末 - 縄文晩期後半における東西交流の一断面 -	縄文時代 第 16 号	95-110	縄文時代文化研究会
10	中村豊	2005b	列島西部縄文時代の精神文化 - 大型石棒・刀剣形石製品を中心に -	西日本縄文文化の特徴	79-88	関西縄文文化研究会・中四国縄文研究会・九州縄文研究会
11	中村豊	2007a	縄文 - 弥生移行期の大型石棒祭祀	縄文時代の考古学 11 心と信仰	283-294	小杉康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一 / 同成社
12	中村豊	2007b	結晶片岩製石器の流通からみた四国の内と外	地方史研究 第 57 巻第 4 号	43196	地方史研究協議会
13	中村豊	2009	石棒を通してみた縄文から弥生への地域社会の変容	考古学と地域文化	49-58	一山典遷暦記念論集刊行会
14	中村豊	2011a	四国地域における縄文時代の精神文化	中四国地方縄文時代の精神文化	35-46	中四国縄文研究会
15	中村豊	2011b	徳島県の精神文化関連遺物および遺構集成とその概要	中四国地方縄文時代の精神文化	249-264	中四国縄文研究会
16	中村豊	2012	中四国地域における大形石棒	縄文人の石神 大形石棒にみる祭儀行為	209-229	谷口康浩 / 六一書房
17	中村豊	2014a	中国・四国地方の縄文集落の信仰・祭祀	シリーズ縄文集落の多様性 4 信仰・祭祀	291-308	鈴木克彦 / 雄山閣
18	中村豊	2014b	中四国地域における縄文時代精神文化について - 大型石棒・刀剣形石製品を中心に -	古代文化センター研究論集 No. 13 山陰地方の縄文社会	23-42	鳥根県古代文化センター

表 16. 3 - (2) ⑦玉関連文献

	著者名	発行年	論文名	書名	頁	編集 / 発行
1	一山典	2004	四国地方のヒスイ玉研究の現状と課題	玉文化 創刊号	98-100	日本玉文化研究会
2	中村豊	2009	四国島出土の縄文時代ヒスイ製玉類	玉文化 第 6 号	81-82	玉文化研究会
3	湯浅利彦	2013	徳島県域における縄文時代の玉文化	玉の魅力に迫る - 四国と周辺の玉生産と玉文化 -	13-20	徳島市立考古資料館





